

8月12日(金)発行

MUZA  
KAWASAKI  
SYMPHONY HALL

ほぼ

# 日刊サマーミュージア

Hobo Nikkan Summer Muza

朝刊

## あざやかに夏をしめくる 華やかなフィナーレ!



©T.Tairadate

8/11 東京交響楽団フィナーレコンサート ▶ 故郷はシェイクスピア、そして映画

いよいよ最終日を迎えたフェスタサマーミュージア2022。原田慶太楼指揮 東京交響楽団が掉尾を飾った。プレトークではコロンゴルト、武満徹、プロコフィエフの作品からなる凝りに凝ったプログラムを「解題」。シェイクスピア、映画音楽、祖国からの亡命、作曲家の若き日と成熟期の作品の対比など、さまざまなテーマを含んだ好奇心を刺激するプログラムが用意された。

一曲目はコロンゴルトの組曲「から騒ぎ」から。シェイクスピアの喜劇が題材だ。フルオーケストラではなく、弦楽器8名プラス1管編成というシアターオーケストラのサイズによる劇音楽だが、R.シュトラウスやマーラーを思わせる楽想も現れるなど多

彩。「仮面舞踏会(ホーンパイプ)」の擬古的なテイストも楽しい。続くコロンゴルトのヴァイオリン協奏曲では、注目の気鋭、岡本誠司が潤いのある音色で情感豊かなソロを披露。難曲を難曲と感じさせない名

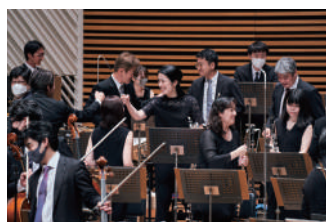


演だった。ソリスト・アンコールはクライスラー「レチタティーヴォとスケルツォ・カプリース」。

後半は武満徹の「3つの映画音楽」で始まった。第3曲「他人の顔」の「ワルツ」が麗麗。おしまいはず

ロコフィエフのバレエ音楽「ロメオとジュリエット」組曲から。原田のダイナミックな指揮が東響から鮮烈なサウンドを引き出し、彫りの深い表現で起伏に富んだドラマを描く。「ジュリエットの死」でしんみりと終わったが、アンコールに同組曲より「朝の踊り」が演奏され、幕切れは華やか。また来年もすばらしい演奏に出会えますように!

(音楽ジャーナリスト 飯尾洋一)



左：岡本誠司(ヴァイオリン) 右：マエストロ原田慶太楼

### お客様から

岡本誠司さんの演奏を生で聴くのは2度目でしたが、なんと引き出しの多い人か! 盤石の演奏! オイストラフがなかったときはかくや...と思わせた。(60代・小谷さん推し) / 岡本誠司さんのヴァイオリン、原田マエストロの指揮、東響の演奏、全て圧巻でした。来られてよかったです。(40代・しろくま) / まさにフィナーレにふさわしい劇的コンサート、コロンゴルト最高! 殆ど毎日来ましたが、原田指揮の武満はこの夏のベストでした。(もちろん、井上のブルックナー、尾高のエルガーと並ぶベストです!) (ブリクラスナ・ムジカ) バレエが好きで聴きにきましたが、オケボックスで聴くのと迫力が全く異なり感動しました(50代・アラベスク) / 原田マエストロからプレトークでプログラムの意図を教えていただいたので、いつもより気持ちの入った鑑賞ができました。(60代・もんちゃん) / コロンゴルトは、いつも「映画音楽だなあ」とちょっと違和感をもって聴いてしまいがちでしたが、今回は、人生やり直すなら「映画音楽作曲家になる」という原田さんが構成し指揮するプログラムだったので、すんなり聴けました。協奏曲の第2楽章、美しかった。トリのプロコフィエフは、これがやりたくて組んだプログラムというだけあって、会心の演奏だったと思います。フィナーレにふさわしい演奏会でした。(60代・おけらマン)

### 配信控え室から



サマーミュージアは配信も充実!

見どころ・聴きどころや配信の現場の声をお届けします。  
アーカイブも引き続き 8/31 までお楽しみください!



全 19 公演の配信をお届けでき、まずはホッとします。配信チームの皆さんのプロフェッショナルなお仕事ぶりに助けられました! 素晴らしい演奏はもちろん、配信チームの熱量の高さもぜひ画面越しに受け取ってください!

ミューザ配信担当 K・Y・K

上記レビュー公演のアーカイブ配信は  
8/13(土) 正午から開始!

【出演】指揮：原田慶太楼(東京交響楽団 正指揮者)

ヴァイオリン：岡本誠司

【配信限定コンテンツ】

オープニングインタビュー：岡本誠司(ヴァイオリン)

休憩時インタビュー：水谷 晃

(東京交響楽団 コンサートマスター)

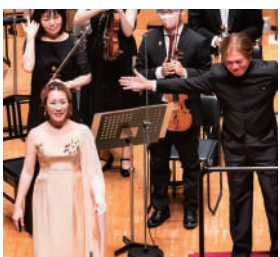
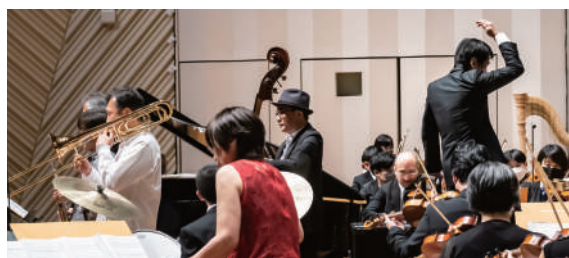
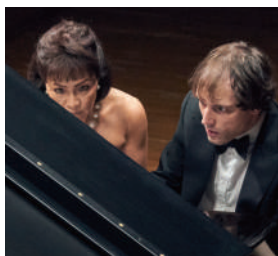


# 20 日間・19 公演を無事完奏！

ホールご来場者 約 20,000 人／  
オンライン配信総再生回数は 13,000 回以上！(8/12 現在)

たくさんの  
ご来場・ご視聴  
誠にありがとうございました！！

8月31日まではアーカイブ配信で  
引き続きお楽しみ下さい！！



【左上から・敬称略】07/23 東京交響楽団 オープニングコンサート(ジョナサン・ノット) | 7/24 真夏のバツハ(ジャン＝フィリップ・メルカールト) | 7/26 洗足学園音楽大学 | 7/28 神奈川フィルハーモニー管弦楽団(大橋英次、コンサートマスター石田泰尚) | 7/29 読売日本交響楽団(井上道義) | 7/30NHK 交響楽団(下野竜也) | 7/31 こどもフェスタ イッツ・ア・ピアノ・ワールド(小川典子) | 7/31 超絶技巧のロシアン・ピアノ・ソナタ(小川典子) | 7/31 出張サマーミュージザ@しんゆり！東京交響楽団(秋山和慶) | 8/2 東京都交響楽団(アラン・ギルバート) | 8/3 新日本フィルハーモニー交響楽団(梅田俊明) | 8/4 東京シティ・フィルハーモニック管弦楽団 | 8/5 大阪フィルハーモニー交響楽団(尾高忠明・ソロカーテンコール) | 8/6 サマーナイト・ジャズ(リチャード・ストルツマン) | 8/6 出張サマーミュージザ@しんゆり！神奈川フィルハーモニー管弦楽団(進藤実優、古海行子、横山幸雄) | 8/7 東京フィルハーモニー交響楽団(ダン・エッティンガー、服部百音) | 8/9 昭和音楽大学(田中祐子) | 8/10 日本フィルハーモニー交響楽団(現田茂夫、森谷真理) | 8/11 東京交響楽団 フィナーレコンサート(原田慶太楼) | 撮影：池上直哉(7/23、26、28、30、8/3、4、7、10) 平館平(7/24、29、31、8/2、5、6、9、11) 藤本史昭(しんゆり2公演)

## 編集部より

ついに最終号！今年もご愛読をいただき、ありがとうございました。バックナンバーは、ミュージザ川崎シンフォニーホール入口前チラシラック(8月末まで)およびサマーミュージザの公式サイトでご覧いただけます。

来年のサマーミュージザの発表は、2023年3月頃を予定しております。ご期待ください！



フェスタサマーミュージザ  
公式サイト

生演奏も、細やかな対応の連続です。同じ出演者で同じ曲目でも、実際の演奏は毎回少しずつ違います。昨日より少しでも良い演奏を目指して努力を続ける演奏家たちを応援しながら、ミュージザも企画内容やサービスなど、少しでも前進できるように、スタッフ一同精進を続けてまいります。

この音楽祭の開催にあたり、後援や助成などでご協力をいただいた関係の皆さまに御礼申し上げます。まだ猛暑が続くようすが、必ず徐々にでも涼風は吹いてきます。夏が終われば「芸術の秋」到来です。引き続きのご来場を心よりお待ちしております。

(事業部長 山本浩)

日刊サマーミュージザ  
Hobo Nikkan Summer Muzza

スタッフ日誌

今年もミュージザへご来場・ネット配信でご視聴ありがとうございました。二十日間、十九公演のサマーミュージザ、完奏いたしました。コロナ禍も3年目、全国1日の感染者が二十五万人に達する過去最大の感染拡大のもとでの開催は緊張の連続でしたが、出演した各楽団やスタッフの予防や対応などお陰で乗り切ることができました。

思い起こせば、2011年の東日本大震災でホールが被災、2年間の市内外での公演開催を余儀なくされました。想定外の連続で厳しい毎日でしたが、そのなかでミュージザは「何とか対応する」力が鍛えられたと感じています。